

12

リビングフィールド

2025年
10月スオスダイ！
(こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいされ、カンボジアでの宣教活動での継続が導かれました。

2024年1月に支援グループ「リビングフィールドの会」が発足し、更に2025年8月には、韓国の宣教団体「WUPM」への加盟が実現しました。主の御言葉と導きによって、現地での活動を継続しています。

近況報告

皆さま、いつも温かいお祈りとご支援を心より感謝いたします。8月初旬にプノンペンへ戻ってから、あっという間に3か月が過ぎようとしています。

9月、10月に続けて発生した大型台風により、カンボジアの近隣の国々に大きな被害が出ました。カンボジアにおいても、隣国ほどの被害はありませんでしたが、浸水被害や突風被害など各地で台風の影響を受けました。また、雨季のこの時期、朝から雨が降り続く日や、曇り空が1週間以上続き、外気温も平年より下がりました。そのため体調を崩す方が多くみられました。今回は、9月と10月の2か月間で起こされた、神様の恵みの出来事をご報告いたします。



プノンペン市内の様子
高層ビルやマンションの建設ラッシュが続いています



ムッポーン先生（左）の叔父さんのお宅にて
食事の後、叔父さんのために祈りを合わせました。

プレイヴェーン州
ムッポーン先生訪問

9月初旬、久しぶりにカンボジアの地方を訪れました。プノンペンから東へ車で約2時間、自然豊かなプレイヴェーン州です。この地で長年にわたり福音を伝え続けておられるムッポーン先生と、そのご親戚の男性にお会いしました。ムッポーン先生は、何年も前から叔父にあたるその方に福音を伝えてこられたそうですが、これまでなかなか心を開くことができなかったそうです。

見よ、新しいことをわたしは行ふ。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。
わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。

イザヤ43：19

ところが今回、CBUのチュン牧師と共に叔父さんと食事をする中で、主がその心に触れてくださいました。なんと叔父さんは、チュン牧師と共に信仰告白の祈りへと導かれたのです。主の素晴らしい御業に心からほめたたえます！

ムッポーン先生の願いは、ご自宅を家の教会としてささげ、地域の方々と共に礼拝できる場所とすることです。そのために、現在家の修理や拡張の必要が生じている、というお話を伺いました。主がこの地での宣教の働きをさらに広げてくださり、ムッポーン先生に与えられたビジョンが実を結ぶように共に祈りをささげました。



チュン牧師（左）が祈り、叔父さん（中央）は信仰告白に導かれました

祝福となるように —横浜オンヌリキリスト教会—

9月13日（土）からの4日間、横浜オンヌリキリスト教会から7名のチームが来訪し、共に宣教活動に参加してくださいました。今回チームに与えられたテーマは、「祝福となる」です。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。…あなたは祝福となきなさい。」—創世記12章1～2節（新改訳）このみことばの通り、チームの皆さんはさまざまな場所で主の祝福を流して下さいました。



礼拝後のピアノカラス。子どもたちは讃美歌の1フレーズを弾けるようになりました！

女性支援活動「希望の糸」では、ラッピング作業に参加され、更に購入を通して作り手のケマさん、スレイモムさんを励ましてくださいました。

子どもたちの集落では、寸劇による伝道イベントを通して神様の愛を分かち合い、祝福を流して下さいました。この日、住民のためにチームが用意したハート型のお菓子パックは、神様の愛を象徴しているようでした。また病を抱えた男性の話聞いたチームは、共に手を置き、癒しを求めてお祈りをして下さいました。彼の御家族は、きっと慰めを受けたことと思います。初めて訪問した昨年と比べて、住民との交流、関係が一層深まったように思えます。更にCBUオフィス教会での子どもイベントや主日礼拝プログラムでも、心から主に仕える姿をチームの皆さんは見せてくださいました。主の導きに感謝いたします。



集落にて。長年病に苦しんでいる男性の話を伺い、癒しを求めて祈りを合わせました

ツアー最終日、プレイヴェーン州のムッポーン先生のご自宅を訪問し、子ども伝道プログラムを行うことができました。実はこの時、開始直前まで雨が降り続き、開催が危ぶまれていました。しかし私たちが現地に着くと、土砂降りだった雨が急に止み、あっという間に青空へと天気回復しました。気持ちの良い晴れ間の中でチームの方々は、子どもたちに大胆に福音を伝えることができました。神様の力強い御業と導きに心から感謝いたします。

このように、主は横浜オンヌリ教会のチームを通して、多くの祝福をカンボジアに届けてくださいました。そしてムッポーン先生の家では、主への尊い献げものによって、家の教会として用いるための工事が、すでに始まっています。これからも、主がこの地で新しいことを起こしてくださると信じています。



ムッポーン先生（中央）を囲んで、ご自宅の前で。新しいことが更に起こされますように。

神様を近くに感じるとき —子ども、青年伝道イベント—

10月12日（日）、プノンペン市内の教会で、子ども青年伝道イベントが開催されました。今年で3回目を迎えるこのプログラムは、毎回、地方の子どもたちとプノンペンの教会の子どもたちが出会い、お互いを知る良い機会となっています。今回、CBUからは総勢25名が参加し、さらにプノンペンおよび地方から集まった教会を合わせ、150名を超える子どもたちが集いました。インド出身の宣教師が活動されている「ホライオス・バプテスト教会」での開催です。各教会の子どもたちは、賛美、劇、ダンスなどをこの日のために準備し、一生懸命練習してきたことでしょう。



迎えた本番。みんなで喜んで賛美を献げました。

仕事の都合で参加が難しいと思われた青年メンバーが急きょ参加できるようになったのです。ピアノが得意な彼が加わり、演奏の一体感が増しました。子どもたちもあきらめず何度も練習を重ね、難しい部分を少しずつ歌えるようになっていきました。青年たちと子どもたちの息も徐々に合うようになり、本番を迎える頃には、心も音も一つになっていました。

迎えた当日、CBUチームは心から主に感謝し、喜びをもって特別賛美をお献げしました。この経験は、きっと青年や子どもたちの心に、恵みの出来事としてずっと残っていくことでしょう。そして、神様をより近くに感じたひとときになったと信じます。



イベント前日のリハーサル練習。練習前のお祈り。

私たちCBUチームは、楽器演奏による特別賛美を2曲用意し、お献げしました。どちらの曲も先月、日本から来訪したミッションチームを通して、主が与えてくださった賛美歌です。この日のために、CBUの青年と子どもリーダーたちは、毎週練習に励んできました。子どもたちは、生演奏に合わせて歌った経験がほとんどないため、難しいチャレンジでした。中には、練習に参加しなくなってしまった子どももいました。主の励まし、慰めを祈りつつ、できなかったことではなく、できたこと、出来るようになったことを共に喜び、励まし合いながら練習は続けました。そんな中、嬉しいことが起きました。



**ホライオス・バプテスト教会（プノンペン）にて
150名を超える、子ども、青年が参加しました。**



試作中の作品と手に。この日はゲストとしてケマさんのソケンさん（右端）も来られました。

「希望の糸」近況報告

カンボジア女性支援活動「希望の糸」の近況です。9月から、横浜市にあるキリスト教書店「オアシス横浜店」で商品販売がスタートしました。今後、他の支店にも展開が広がっていくことを祈っています。現在、ケマさんとスレイモムさんは新商品のマクラメバッグに加え、携帯ストラップ、コースターなど新しいアイテム作りにもチャレンジしています。新しい作品の開発には、実際に作ってみて初めてわかる課題も多く、試作品を作り、改良を重ね、また次の試作品へと挑戦する日々です。その一つひとつの過程の中で、主が最善へと導いてくださることを信じ、互いに励まし合いながら毎週取り組んでいます。引き続き、お祈りいただければ幸いです。

来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内のミッションスクール「ホープインターナショナルスクール」で学んでいます。8月から、来主は高校2年生に、栄主は中学2年生に進級しました。

9月には学校主催のキャンプが行われ、来主たちの学年は、アンコールワットで有名なシェムリアップを訪れました。アンコール遺跡群の視察に加え、身寄りのない子どもたちが生活する施設での奉仕に参加しました。これまでにない盛り沢山の内容だったそうです。これから、大学進学を見据えながら、学びをさらに深めていきます。お祈りいただければ幸いです。



朝焼けに映えるアンコールワットを背に
高2クラス全員で記念写真



バスケットボールの対外試合にて
次のプレーに移ろうとする栄主（左）

一方の栄主は、学校のクラブ活動でバスケットボールに力を入れています。ホープスクールでは、3か月ごとに、クラブ活動の競技（サッカー、バレーボール、バスケットボール）が変わります。昨年から栄主は、サッカーに加えてバスケットボールにも参加するようになりました。最近、身長が伸びてきたこともあり、ドリブルやディフェンス、シュートすべてにおいて上達を実感しているそうです。

スポーツが好きな二人にとって、サッカーだけでなくバスケットボールの機会も与えられていることは大きな恵みです。学業、スポーツ活動共に守られていることを主に感謝いたします。

宣教活動継続のために 一経済的必要性について一

皆さまのお祈りとご支援、そして何より主の祝福と導きによって、これまでカンボジアで宣教活動を続けてこられたことを心から感謝いたします。今回は、この地での働きを継続していくための経済的な必要性についてお伝えさせていただきます。

現在、毎月およそ50万円（学費、生活費、家賃、活動費）が必要です。感謝なことに10月末時点で、向こう約4か月分の必要はすでに満たされています。しかし、それ以降の備えは、まだ与えられておりません。どうか、毎月の必要が主によって満たされるように、そして私たち自身が、いつも天の窓を開いてくださる主を信頼し、主に期待して歩むことができるように、お祈りいただければ幸いです。



これまでカンボジアでの生活、宣教活動を
続けられてきたことを感謝します。

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
2. キリングフィールド近くの集落と教会付近の地域が、福音によって変えられていくように。
3. カンボジア女性支援ミニストリー「希望の糸」の新製品開発が導かれるように。
4. カンボジア宣教に加わる教会が新たに起こされ、宣教のための経済的必要性が満たされるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫（WUPM宣教師）、来主（くろす、16歳）、栄主（えいす、13歳）

（連絡先）Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

ホームページ：<https://living-field.org/>

（献金振込先）楽天銀行 ノエル支店（支店番号246）

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

